

第4章

都市における
自然環境の再生・創出

関連データ

事業費総額：3,453千円（平成16年度予算額）
事業期間：平成16年度から継続
開始年度：平成15年度から計画準備
実施主体：福井県および武生市

概要

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」で国内希少野生動物に指定されているアベサンショウウオをはじめとする希少種が多く生息、生育する市内の里地里山の保全計画を、県が中

心となり平成16年度策定中。市は、市民の意識形成を図るため、小中学生の総合学習の時間を利用した環境教育や地域住民を中心とした地元学（地域の環境素材の洗い出し）学習会を開催している。また、「全国メダカシンポジウム」を開催し、里地里山の保全について市民の理解を深めている。さらに、自然環境について専門知識のある嘱託職員を雇用することで、国、県との調整や地域住民を巻き込んだ保全活動を進めている。こうした施策が奏功したことにより、地区住民、子供たちの中で自主的な活動が芽生えはじめている。



小学校での自然環境学習



地域で実施した環境学習会「里山たんけん隊」水辺の生き物調査



全国めだかシンポジウムin菊香る越前たけふ 全体写真



分科会での子どもたちの発表

関連データ

事業費総額：4,000千円
事業期間：平成15年度から平成19年度
開始年度：平成15年度
実施主体：松本市庄内土地区画整理組合

概要

土地区画整理事業地内のヘイケボタルが生息する水路（約30m）の廃止にあたり、区域内に新設する予定の街区公園内に仮設水路を設けて、ホタルのエサと幼虫を泥ごと移転し、ピオトープの再生を行っ

た。

地元住民及び土地区画整理組合との協働によって維持管理を行った結果、平成16年は約30匹のホタルの発生を確認することができ、地元固有の遺伝子の保全に向けた一歩が踏みだせました。

今後、ホタル水路を生かした街区公園整備計画立案について、地元住民とのワーキングにより、自然資源を活用した多自然型水路として持続させていきたいと考えます。



ヘイケボタル（平成16年は約30匹のホタルの発生を確認）



移転先の水路（平成15年11月）



平成16年4月現在の池（候補）

関連データ

事業費総額：324千円
事業期間：平成12年度から継続
開始年度：平成12年度
実施主体：八王子市環境部環境保全課

概要

本市はマルベリーブリッジ花づくり事業として、JR八王子駅北口歩道橋(マルベリーブリッジ)上の、コンテナ・植栽柵を使用して花づくり活動を実施している。

市民ボランティア56人と本市・団体(花代の一部負担)が協働で行っている都市緑化モデル事業である。

平成16年度からボランティアを56名に増員し、都市緑化モデル事業として、長期的な効果を上げている。また、大学・試験場などの協力を得て講習会なども実施しており、全市的な人のネットワーク形成を目指している。

さらに、コンテスト応募(受賞)等の自主活動や、本市の他の都市緑化・公園などの環境美化、協働事業への参加などで同事業は発展的につながっており、効果が上がっている。



マルベリーブリッジ花づくり事業、冬の植え替え。



マルベリーブリッジ花づくり事業、冬の植え替え。



マルベリーブリッジ花づくり事業、市民による冬の花のデザインについての打ち合わせ。

関連データ

事業費総額：386,271千円(平成16年度までの事業費)
事業期間：平成10年度から平成30年度
開始年度：平成10年度
実施主体：武蔵野市

概要

市内を流れる唯一の一級河川である仙川は、コンクリート三面張の構造で晴天時には水がほとんど流れず植物も生育しにくい環境でした。そのため水と緑にあふれ、地域に親しめる川となるよう、平成10

年度から整備を進めています。また、都市環境インフラの再生という観点から、ほとんど水の流れない仙川に水と自然を取り戻すことは、周辺住環境の向上に大きく寄与するとともに、水と緑のネットワークを構築する事業です。

仙川の水源の確保から、平成12年度に東京都水道局境浄水場からポンプ圧送により洗砂水を仙川に放流するため、市立桜堤公園内に貯水槽(約500t)を設置する工事と導水する工事を行い、仙川に清流が復活しました。洗砂処理水は緩速ろ過方式で水を浄化するために必要な過砂を洗浄した後の水だが、めだかなどが住める綺麗な水です。



仙川親水化の様子



仙川の現況(コンクリート三面張の構造となっている)

関連データ

事業費総額：131,376千円

事業期間：平成7年度から継続

開始年度：小学校平成7年度、中学校平成8年度

実施主体：武蔵野市立小学校・中学校教員、学習・生活指導員、および武蔵野市教育委員会

概要

セカンドスクールは、小学5年生・中学1年生を対象に行う全員参加型の長期宿泊自然体験で、普通の学校をファーストスクールといい、学校では体験できないようなことを自然の中で行うものである。

各校は総合的な学習時間を中心として、特別活動、社会や理科等の年間授業計画に位置づけて実施している。体験内容は農業・漁業・林業体験をメインに各校が工夫を凝らして行っている。また、ほとんどの学校が民泊を取り入れ、現地の方々との交流がある。また、平成15年度より小学4年生を対象とした「プレセカンドスクール」を試行実施。15年度は4校、16年度は10校、17年度より全校（12校）で本格実施となる。セカンドスクール体験後の子どもたちからは、「自然と触れ合い、自然の素晴らしさを知った」「友情が深まった」「人を気遣う心を学んだ」など、本当に良い経験になったという感想が多く見られた。



長野県飯山市で稲刈りを体験する小学生



そば打ち



脱穀



林業体験（伐採活動）

関連データ

事業費総額：3,146,000千円
事業期間：平成15年度から平成16年度
開始年度：平成15年度
実施主体：区・区民・事業者

概要

区の“みどりの生命線”である国分寺崖線を保全する仕組みづくりとして、以下の施策を実施している。

「国分寺崖線保全整備条例」の制定により、斜面地建築物の制限を行い、良好な景観の形成と住環境の整備を図る。

「みどりの基本条例」の制定により、国分寺崖線保全重点地区を定め、重点的にみどりの保全・創出を図る。

住民参加型ミニ市場公募債「グリーンボンド」を発行し、成城4丁目の緑地を購入した。この緑地を整備し、国分寺崖線沿いの貴重なみどりを保全し、区民の財産として次世代に引き継いでいく。

崖線内の里山保全活動として、区・区民・トラストが協働して環境教育活動・管理活動を行う。区・区民・事業者がそれぞれの役割を連携することにより、さらに国分寺崖線のみどりの保全に努めていく。



国分寺崖線沿いの写真



国分寺崖線沿いの写真



国分寺崖線沿いの写真

関連データ

事業費総額：330千円

事業期間：昭和47年度から継続

開始年度：昭和47年度（愛鳥モデル校指定）

実施主体：秦野市教育委員会、小・中学校

概要

児童・生徒に身近な環境問題に対する関心を持たせ、自主的に解決する力を育てるため、本市では、総合的な学習の時間等を活用して環境教育に取り組んでいる。

市が行っている環境教育の具体的な取り組みとしては、農林業に対する理解を深めるため、近隣農家の理解を得て、学校農園の設置等によって、体験学習の場づくり。野生生物保護活動の普及啓発のため、愛鳥モデル校の指定と野鳥資料展の開催などがある。

こうした農林業体験、愛鳥活動等の体験活動を通じて、小・中学生は身近な環境に目を向けるようになり、自然保護についての興味関心が高まってきている。



農林業体験（北小学校）



農林業体験（北小学校）



愛鳥活動写真（鶴巻小学校）



愛鳥活動写真（鶴巻小学校）

関連データ

事業費総額：80千円
事業期間：平成15年度から平成16年度
開始年度：平成15年度・16年度
実施主体：教育部生涯学習課岡本公民館

概要

本市は、市内の小学4年生以上（中学生も含む）を対象に、春夏秋冬の季節ごとに自然観察隊を実施した。

具体的には、春は「身近な春を発見して新聞を作

ろう」、夏は「夏休み親子星空ウォッチング」、秋は「秋の自然に触れてみよう」、そして冬は「冬の星空をウォッチングしてみよう」と題した観察会を実施し、自然に親しむ環境教育を推進した。

自然観察会に参加した子どもたちは、身近な自然と触れ合うことによって、自然環境との付き合い方などを学んだ。



自然観察隊、林の中での観察の様子



自然観察隊、林の中での観察の様子



自然観察隊、自然新聞作りの様子

関連データ

事業費総額：636千円（平成16年度予算額）

事業期間：平成12年度から継続

開始年度：平成12年度

実施主体：川口市

組み、将来にわたって美しい環境を守っていかうとするものである。

市では、美しい都市景観の形成を図り、市民に潤いとやすらぎのある生活空間を提供するとともに、緑を大切にし守り育てていかうとする意識を高めてもらうためにも、この事業は効果の高い施策と考えている。

概要

本市が行っている市民ボランティアとの協働による緑地保全活動は、見沼たんぼや見沼代用水、ならびに赤掘用水沿いに残る斜面林等、都市近郊に残る貴重な自然環境を、市民と行政が協働して保全に取



緑地保全活動の様子（安行地区）



緑地保全活動の様子（安行地区）



緑地保全活動の様子（神根地区）



緑地保全活動の様子（神根地区）

関連データ

事業費総額：2,410千円（平成16年度）

事業期間：平成11年度から継続

開始年度：平成11年度

実施主体：川口市

概要

本市は市内の小・中学校に鋳物製雨水貯留槽を設置することで、児童・生徒に本市の地場産業の鋳物産業および雨水の有効利用（学校農園、花壇等の雨水利用）、水循環の授業に利用し、児童・生徒に雨

水利用の学習に役立てている。

この鋳物製雨水貯留槽を設置することで、児童・生徒は地場産業の鋳物製品を直接見たり、肌で感じたりすることができる。また、家庭にいと直接、雨水は雨どいを通して下水等に流れてしまうため、普段雨水について考えることはないが、貯水槽の設置以降、雨水の有効利用を新鮮な気持ちを持って学習に取り組めるようになった。

なお、平成16年度にこの鋳物製雨水貯留槽を設置した学校は、並木小学校・差間小学校2校となっている。



鋳物製雨水貯留槽

関連データ

事業費総額：46千円（平成16年度予算額）

事業期間：平成13年度から継続

開始年度：平成13年度

実施主体：川口市

対象となるのは、市内小学校3年生以上で、2年生以下でも保護者同伴で参加可能となっている。

一日を自然の中で過ごすことにより、自然について学び、考え、自然を大切にする心を育てる。

概要

市内でも貴重な自然が残っている見沼たんぼにおいて、自然を大切にする心を育てるため、自然観察教室および自然の材料を使った工作教室を行っている。



自然ふれあい教室（見沼たんぼ散策）



自然ふれあい教室（見沼たんぼ散策）



自然ふれあい教室（工作教室）



自然ふれあい教室（工作教室）

関連データ

事業費総額：229,199千円
事業期間：平成10年度から平成13年度
開始年度：平成10年度
実施主体：日立市

現在は地元の市民団体により、イトヨの保護活動を主体に公園の運営・管理が行われている。

また、同事業のコンセプトは「野生希少動植物とふれあう公園」とし、地元小中学校の環境教育の場としても幅広く活用されている。

概要

貴重な淡水魚イトヨの発見を受けて、本市では市民参加のワークショップ方式で親水公園化を計画した。平成10年度に始まった、泉が森親水公園整備事業も住民の協力を得て完成に導いた。



イトヨの放流（オープンセレモニー）



運営委員会の管理作業。



クレソンの水辺で遊ぶ子どもたち

関連データ

事業費総額：27,279千円
事業期間：平成10年度から継続
開始年度：平成10年度
実施主体：つくば市

概要

本市は環境教育関連事業の一環で、次代を担う青少年が、自分たちの生活環境や自然環境などについて認識を深められるように、シンポジウムや自然観察会を開催している。

環境教育関連事業としては、シンポジウム運営委託や、秋田県美郷町との交流を通じて、水の大切さなど生活環境のあり方を学びあう行事などを催している。また、環境教育関連事業の事業費は総額で15,565千円となっている。

水みらい21計画に関しては、環境マップ作成委託などがあり、事業費は総額で11,714千円となっている。

環境教育に関しては、教育委員会との連携のもと、長年各方面に渡り力をいれているため、子どもたちの環境に対する関心も高く、大きな波及効果が期待できると考えている。



霞ヶ浦湖上セミナーと流入河川等観察会（霞ヶ浦湖上）



霞ヶ浦湖上セミナー（筑波山又次沢）



水と親しむ生活体験県外派遣事業（秋田県美郷町立六郷小学校との水環境交流事業、写真はブナ林見学の様子）



第7回水みらい21児童シンポジウム

関連データ

事業費総額：2,600千円
事業期間：平成15年度から平成17年度
開始年度：平成12年度
実施主体：沼津市および沼津市農業振興推進協議会

概要

市民の安全な食生活を実現するため、生産者の顔の見える地場生産地場消費の「地産地消」運動を推進しており、その定着化を総合的に図っているのが地産地消総合推進事業である。

同事業の主な内容は、地産地消運動の啓蒙、学校給食等への地場食材の利用促進、環境保全型農業の推進、直販活動の推進といったものがある。また、同事業の効果については、地元農産物に対する理解が得られる、安全性の高い農産物の購入が可能となる、環境保全型農業の推進が図られる、農業所得の向上につながるといったものがあげられる。



地元の農作物を校内におき、地産地消運動を啓蒙している



学校給食への地場食材の利用促進

関連データ

事業費総額：31,000千円（平成15年度）
80,000千円（平成16年度）
事業期間：平成15年度から継続
開始年度：平成15年
実施主体：豊田市

概要

市民、企業、行政が一体となり、花の演出による環境整備を行っている。花を飾ることで、訪問者に安らぎと潤いを与え、快適で印象に残るもてなし空間の創出を図ることを目的としている。この花飾り

は4路線（フラワーロード総延長30.5km）と鉄道駅、高速道路IC周辺で実施している。

4路線沿線に点在する花壇・プランター等設置可能な道路用地および協力いただける民地等を利用した地元団体等の日常管理（水遣り、植替え等）による花飾りで、花壇・プランター設置、花苗、肥料、用土は市の支給となっている。

現在、4路線沿線の約350の団体から理解が得られ、「花のあるまちづくり」に向けて、事業を推進している。



子どもたちによる花苗植栽の様子



愛・地球博キャラクター「モリゾーとキッコロ」



市民、企業、行政が一体となって花のある道づくり事業を行っている



花の演出による環境整備を行い、訪問者に安らぎと潤いを与えている

関連データ

事業費総額：15,345千円
事業期間：平成11年度から平成16年度
開始年度：平成11年度
実施主体：多治見市および市民

概要

本市は、三の倉市民の里を取り巻く豊かな自然と、恵まれた地域環境（甘原・諏訪・三の倉）の活用を図りつつ、里山の自然、歴史、並びに伝統文化の持続的な継承発展を、地域住民と市民の里の相互理解

とパートナーシップによって達成するための整備事業と、行政と市民の行動組織の構築について、三の倉里山ゾーン整備検討委員会（平成11年から13年）より提案を受けた。

この提案を受けて、これまでに里山たいけんマップの作成をはじめ、遊歩道、ポケット緑地とやすらぎの森整備や里山地域を結ぶ道しるべ整備を行いながら、三の倉里山地域全体をオープンフィールドの里山博物館として位置付けながら、整備を行っている。こうした地域と三の倉市民の里との連携が実を結び、里山地域の保全と活用が進んでいる。



里山の風景（諏訪地区）



ひのき林間伐とたのしい木工教室（屋外講習会）



親子間伐体験（間伐と枝打）

関連データ

事業費総額：14,297千円（平成16年度予算額）
事業期間：平成10年度から継続
開始年度：平成10年度
実施主体：東近江市&里山保全活動団体遊林会

概要

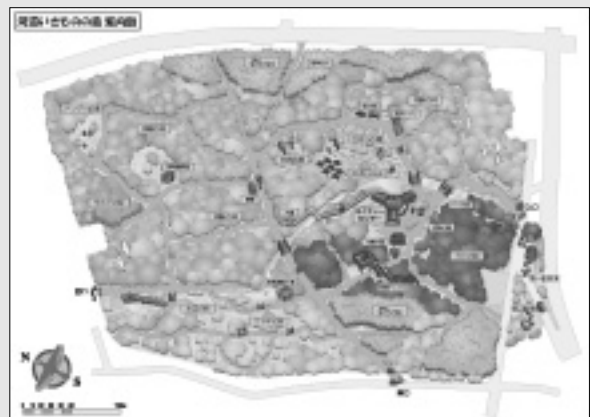
本市と市民の自主的な活動団体である遊林会は荒廃した愛知川河辺林で、生態系を踏まえた保全活動を実施している。継続した確かな活動が市に里山保全活動を実施している森を利用した環境学習の場

「河辺いきものの森」整備を決意させた。（実施 平成11年度～平成13年度整備）市は施設整備中より、この施設の管理運営についても里山保全活動を実施している遊林会に一部を委託し、より利用者ニーズに応えるようにしている。

現在、7年目に入った遊林会の活動は毎月2回以上里山保全のための作業を市とともに実施しており、読売新聞主催・環境省共催の「日本の里地里山30選」に選ばれるなど着実なものになっている。一方、市と協働で実施している森の自然を利用した環境教育や自然体験学習も遊林会と市のスタッフの協力で極めて好評で、県外からの利用申し込みがある。



全景保全前



河辺の森地図



保全作業



保全交流

関連データ

事業費総額：291千円
事業期間：平成14年度から継続
開始年度：平成14年度
実施主体：舞鶴市

概要

本市は、子供たちに環境問題に関心を持ってもらうきっかけを与え、楽しむ中で、自分で何かを感じてもらおうことを目的に、平成14年度に「まいづるこどもエコクラブ」を立ち上げた。小中学生の自主的

な環境に関する活動や学習を支援する環境省の事業「こどもエコクラブ 全国事務局」に登録もしている。定員40名の親子を対象とし、年度ごとに募集している。内容は、環境啓発3事業に体験型環境学習の場を加えて、全5回開催（6月～11月）しており、それぞれ ネイチャゲームとメダカの学校見学、エコスクールinまいづる、水辺教室、スターウォッチング、バードウォッチングだ。

市内で活動する自然環境保全団体からの講師派遣等の協力を得ている。身近な環境について楽しみながら学ぶことができ、子供のうちから環境問題への関心を高めることができる。



水辺教室



バードウォッチング



エコスクール in まいづる（昆虫採集）



スターウォッチング

関連データ

事業費総額：719千円

事業期間：平成16年度から継続

開始年度：平成16年度

実施主体：吹田市および市民団体「ピアノ池の環境をよくする会」

概要

本市の公園池である「ピアノ池」において、地元自治会、環境NPO、本市緑化公園室などから構成する「ピアノ池の環境をよくする会」が、池に繁茂しすぎる水生植物「ヒメガマ」を、ボートやカヌーを

利用して一部刈り取る「ピアノ池ヒメガマ刈り取り大作戦」を実施している。

また、地元の小学生向けに生き物観察会も開催した。市民参加による公園池の生態系・景観の保全活動として、来年度以降も他の公園池で施策展開を予定している。

施策の効果としては、公園池をとりまくコミュニティの活性化に寄与しているほか、学識者の参画により、活動内容に厚みを持たせ、生態系の保全効果も高くなった。さらに、行政単独では不可能なきめ細かな維持管理が市民参画により可能となった。



「ピアノ池の環境をよくする会」の人々がヒメガマを刈り取る様子



生き物ウッチング



「ピアノ池の環境をよくする会」の集合写真

関連データ

事業費総額：300千円

事業期間：平成13年度から継続

開始年度：平成13年度

実施主体：橿原市

概要

本市は市内16校の小学4年生を対象に、環境教育を実施している。環境教育の目的としては、子どもたちに、水の大切さと私たちの生活が河川の汚濁に深く関わりをもっていることに気付いてもらい、水

環境がいかに重要なものかを考えてもらうことにある。

講義については環境対策課の職員が行い、学習内容については、水や河川に関する講義から、パックテストを使った河川水水質の簡易測定および水質に関するビデオ鑑賞を行っている。

講義を通じて、児童には本市の河川の現状を理解してもらうことで、水環境を含めた環境全般に関する興味・関心・知識を深める狙いがある。



水や河川に関する講義風景



水や河川に関する講義風景



河川水水質の簡易測定の様子



河川水水質の簡易測定の様子

関連データ

事業費総額：6,162千円（平成16年度事業費）

事業期間：平成15年度から平成19年度

開始年度：平成15年度

実施主体：豊岡市

概要

コウノトリの野生復帰を推進するうえで、餌場の確保が必要となる。そのため、市では転作田の常時湛水によるピオトープ化と稲作栽培体系を常時湛水型（冬期湛水・中干し延期型）に誘導することによ

り、水田の餌場としての機能を増進している。施策を通じてピオトープおよび冬期湛水・中干し延期によって、餌生物の増殖が認められようになり、水田の餌場としての機能が増進されている。

転作田ピオトープ型は転作田を通年的に餌場として活用。常時湛水稻作型は子育て時期（4月～7月）と餌の不足する冬場（10月～3月）の餌場として活用。

また、転作田ピオトープ型は平成15年が6.7182ヘクタール、16年が7.2322ヘクタール、常時湛水稻作型は15年が1.1461ヘクタール、16年が5.6402ヘクタールとなっている。



祥雲寺から一望できる豊岡市の水田再生事業



施策を通じて水田の餌場としての機能が増進されている



転作田で行われた米ぬかまき

関連データ

事業費総額：6,600千円
事業期間：平成12年度から平成16年度
開始年度：平成12年度
実施主体：里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

概要

本市を貫流する二級河川厚東川の水系地域において、水生生物等の生息環境を創造するため、休耕田を活用したビオトープ創造事業を行っている。

事業実施にあたり、グラウンドワークの手法を使い、ビオトープづくりに関心のあるボランティアを

募集し、3カ月間の議論を経て、「基本コンセプト、ゾーニング、作業スケジュール」が決まった。毎週土曜日には、ボランティアが手弁当で朝から夕方まで小川の造成、シガラ組み、湿地・池やカブトムシ小屋等の製作等を経て、動植物を移入し、わずかな予算のほかは、会員の知恵と汗でカバーしたビオトープが、1年半かけて平成14年3月に完成した。

平成14年4月には、こうした取組が評価され、「自然環境功労者環境大臣賞」を受賞し、最近では、市内の子供たちを対象に「自然観察隊」と銘打ち、自然環境学習のための体験講座をはじめるとともに、田植え、餅つき、蕎麦づくりなどの体験学習も取り込んだ形で活動は継続されている。



6月時点全景



10月時点全景



里山ビオトープ二俣瀬の最終イメージ図

関連データ

事業費総額：135千円
事業期間：平成15年度から継続
開始年度：平成15年度
実施主体：佐賀市

概要

本市では小中学校で環境教育を実施するとともに、学校ではできない環境教育については、市が環境学習講座を開催している。

この環境学習講座は市の地域特色を生かし、体験

活動を通して身近な環境について学んでもらうことにより、将来を担う子どもたちに環境保全の意識を育むことを目的にしている。

講座は小中学生の親子を対象に、自然観察、水質調査、化学実験など、毎月1回開催している。また、春休み、夏休み、冬休みには、特別講座も開催している。

講座を開催してから1年を経過したが、参加者には大変好評を博したという。市では今後、系統的にカリキュラムを組み講座を実施していきたいと考えている。



「街中の公園と川の生き物観察」
採集したトンボの説明をしている。



「酸性雨を調べよう」
飲み物の酸性度を測っている様子。



「有明海で干潟体験」
泥まみれになって干潟の感触を楽しんでいる。



「金立山でみどり探検」
元気な木と枯れた木の音の違いを聞いている。

関連データ

事業費総額：12,132千円（平成16年度）
事業期間：平成11年度から平成18年度
開始年度：平成11年度
実施主体：宮崎市

概要

都市化の進展に伴う緑の喪失と無機質なコンクリート構造物の増加により、潤いのある都市景観の喪失や、ヒートアイランド現象等の都市公害が、全国的に発生し、都市環境や市民生活空間の劣化がもた

らされている。

そのような中、土木構造物や建物のコンクリート面を植物でカバーする「壁面緑化」や「屋上緑化」が注目されてきている。本市でも、市役所庁舎や公民館、橋梁などの公共施設を対象にアイビー等のつる性植物を利用して壁面等を緑化し、緑化施設づくりのモデルとなるよう「宮崎市アイビー大作戦」と銘打ち、その取り組みを開始した。

開始当初は緑化個所が10カ所程度であったが、今では100カ所を超え、緑化された施設は着実に増え、潤いのある緑豊かな街並みの形成に寄与している。



宮崎市生目の杜運動公園（樹種 ハーデンベルギア）



宮崎市生目の杜運動公園（樹種 ベンガルヤハズカズラ）



宮崎市教育情報研修センター（樹種 ヘデラカナリエンス）



宮崎市保健所（樹種 ナツツタ）

関連データ

事業費総額：860,000千円（宮路川）、
356,205千円（半俵川）
事業期間：平成13年度から平成22年度（宮路川）、
平成9年度から平成14年度（半俵川）
開始年度：平成9年度
実施主体：富山市

概要

本市は宅地化の急速な進展により雨水の流出量が増大し、河川における流下能力不足から浸水被害が多発している。このため、補助事業（準用河川改修

事業・都市基盤河川改修事業）として河川改修を実施している。河川改修にあたっては多自然型川づくりを基本とし、自然環境と生態系に配慮している。例えば、護岸は見た目にも優しい石積みタイプを使用し、草木や昆虫などの生物が生活できるように隙間を設けた。また、水面下では魚のすみかとなるような穴（魚巣）を設けたブロックを使用した。

改修後は改修前の植生が回復し、景観上の自然度を向上させたほか、生物生息環境の多様性の確保にも寄与している。

関連データ

事業費総額：55,225千円
事業期間：平成16年度から平成17年度
開始年度：平成元年
実施主体：日野市

概要

緑地信託制度は、良好な都市景観の形成を図る一環として、市内の良好な自然的環境を形成している民有緑地を保全し、市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的として平成元年に制定され

た。

信託契約が結ばれているのは現在23カ所56,911㎡。緑地信託制度では、緑地所有者と市が契約を取り交わし、市は下草刈りなどの管理作業を行っている。緑地所有者が当該緑地を有償で譲り渡す場合には、市に緑地の先買い権が定められており、これまで6カ所18,385㎡の緑地を市は保全してきた。このほか、従来から取り組んできた緑地保全事業として、都市公園等統合補助制度により、都市緑地について国庫補助金を導入し、緑の確保を行っている。なお、用地費の1/3は国庫補助となっている。

水戸市
(茨城県)

都市緑地の保全

問い合わせ先：
都市計画部公園緑地課
<http://www.city.mito.ibaraki.jp>

関連データ

事業費総額：ゼロ円
事業期間：平成5年度から継続
開始年度：平成5年度
実施主体：茨城県、水戸市

緑地保全地区に指定することにより、中心市街地に隣接する当該緑地の保全が図られている。
なお、当該緑地の指定面積は24ヘクタールである。

概要

本市は中心市街地に隣接する北側斜面における緑地の保全を行っている。これは良好な都市環境を形成するため、都市緑地保全法（昭和48年法律第72号）に基づき必要な都市計画を定める。

生駒市
(奈良県)

東生駒川上流溜池景観整備事業

問い合わせ先：
生活環境部環境管理課
<http://www.city.ikoma.nara.jp/>

関連データ

事業費総額：2,006千円（平成16年度予算額）
事業期間：平成9年度から平成16年度
開始年度：平成9年度
実施主体：生駒市

を含めた噴水を設置し、維持管理を行っている。
生活排水対策および河川の水質浄化等に対する市民の意識の高揚を図り、周辺住民に憩いと親しめる場を確保し、住民相互のコミュニケーションの場として活用されている。

<参考データ>

噴水形式：フロート型噴水

噴水形：王冠型 せせらぎ水路：L = 18m

概要

本市は、東生駒川上流溜池景観整備事業として、生活排水の流入によって、汚濁の進む東生駒川の上流に位置している市街地の農業溜池を親水公園として整備し、水質の浄化機能を有し、水性植物の植栽

